

## 片山伸也 研究室

専門領域：都市計画・建築計画・建築史・意匠

片山研究室では、住宅から都市まで、住空間の歴史的な形成過程とその社会的・文化的背景および通りや広場、街並み等の公共空間を研究テーマとしています。

ゼミ生や学生有志、研究室で取り組んでいる調査・研究・楽しい企画(?)を紹介します。古今東西の「都市文化」を中心に「すぐには社会の役に立たない」けど重要なテーマにのんびり取り組んでいます。

右の写真は学生が卒業記念に作ってくれたマグカップです。片山研究室は、異なるテーマ(文化)が交錯するカフェであって欲しいと思っています。



## ■ イタリア丘上都市

イタリアには多くの丘上都市が存在します。その多くは中世後期に商業拠点として発達しました。中世丘上都市の都市形成の過程とその背景、都市空間の合理性、中世における都市の概念の研究をしています。

イタリア中部トスカーナ州の丘上都市シエナは、アペニン以北とローマを結ぶフランチジェナ街道沿いに位置し、11世紀以降のヨーロッパ経済の復活と共に発展しました。シエナの最盛期に市庁舎の建設およびカンポ広場の整備を行なったノーヴェ(9人)政府(1286-1355)が、A. ロレンツェッティに描かせたフレスコ画「善政の効果」には、都市の景観が生き生きと表現されています。



## ■ オスティア・アンティカ調査



「古代ローマ都市オスティア・アンティカの総合的研究」の共同研究者として2008年度から古代ローマの住居形式であるインスラと中世住居の比較研究をしています。オスティアは、ローマ南西約20キロの、テヴェレ川河口にあった港町。古代にはローマの外港として大きな発展を見せますが、ローマの衰退とともに衰え、テヴェレ川の運ぶ土砂に埋没しました。ポンペイほど有名ではありませんが、一地方都市に過ぎなかったポンペイと比べても、古代ローマ都市としての重要性ははるかに大きいと言えます。

この研究では、古代ローマのオスティアのインスラ遺構からインスラの類型を見出し、中世の住居形式との構造的・構法的連続性について考察しています。

## ■ 鎌倉の近代住宅建築

鎌倉市内には、明治から昭和初期にかけて、皇室、政財界人、文化人の別荘建築が次々建てられ、洋館や和洋折衷住宅や近代和風住宅など豊かな住文化が形成されてきました。これら鎌倉の近代住宅の一部は平成2年に始められた市の「景観重要建造物等」に指定されていますが、景観保全という立場からだけではなく、これらの建物は保存活用することで地域活性化や事業拠点となる今日的な文化資産であると捉え、調査・研究しています。



## ■ 学生による「まちづくり」提案

東京商工会議所主催の「大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会」に、都市計画の授業を履修する学生を中心とした有志メンバーで参加しています。この大会は、学生が商業・地域活性化・景観などの観点から対象地域を調査し、地域の特徴を生かしたまちづくりのあり方を提案するものです。

2008年度は文京区が対象地域で、不忍通りと外堀通り～目白通りを結んだ文京区環状道路構想を軸に大塚・本郷・湯島の三地区について歩きやすいまちづくりの提案をしました。

2009年度は台東区が対象地区で、人口の減少と高齢化によって廃校となった小学校(旧坂本小学校、旧下谷小学校、旧小島小学校)を再びコミュニティの中心施設として復活させるリノベーションの提案をしました。



## ■ 都市空間の公共性



私たちが生活する都市空間は私的空間と公共空間からなっていて、私たちはその二つの領域を行き来しています。

イタリアの都市における小広場は、都市におけるたまり空間であり、あるコミュニティによる公共空間の私的利用とも言えます。逆にパリのパッサージュのように私有地内を都市の路地的な抜け道として開放する事例もあります。

建物が通りに沿って建ち並ぶ沿道空間もまた、公私のせめぎ合いの中で都市景観を形成しています。

研究室では、様々な地域におけるこのような都市空間の公共性に関する事例研究も行っています。

